



アジア No.1のシンガポール！ ストレス無き社会…。

今回、とある銀行系の商談会に参加するために、シンガポールへ初めて行ってきました。色々な職種のビジネスマンがシンガポール入りされて、皆さんが異口同音に言われること…、『老後は住みたい』『なんという人間の優しさ』『清潔感あふれた国』とほめ言葉であふれています。

確かに私もそう思いました。仕事柄の切り口とすると、タクシーの運転手もホテルマンもレストランのサーバーもコンビニの店員も、中華系やインド系など人種は違えども、サービスを越えたホスピタリティー性にあふれている点の特筆すべき事でした。日本人が一番と思われていた部分を、あっさりと明らかに超えられています。それはもう、ショック！ここ20年の日本の教育の後退が気になります。

47年前のマレーシアで、時の政権にワあ〜ワあ〜と反対・敵対した中華系を中心とした勢力がいたそうです。うるさい連中は、マレー半島の先っぽにある小さな島をくれてやるから、そこへ行って自分らで独立せいで！と切り離されて出来たのがシンガポール。この47年間、首相は3人目、実に見事な国作りをしてきており、最高の経済発展を遂げています。今や一人当たりGDPは49000ドルと、日本を5000ドルも引き離してアジアトップ。人口350万人、移住者150万人、大きさは東京23区ほど、年収7000万円以上の人が15%も存在する実に豊かな国です。どうやって実現したのでしょうか？

その根幹は、英語という言語を選択したこと。教育の重要性に気づき、自分たち教育者を出そうとはせず、世界の英語圏から優秀な教育者を入れただけ。国家の目標は経済発展としごく単純明快で、住みやすい国とか雇用対策なんて、発展の果実を間違っても政策目標にはしないという懸命さ。国土と人口の小さいシンガポールが発展するためには、人・物・金・情報が行きかう『プラットホーム国家』を目指す！だから利用者目線でストレスは排除する、無秩序な自由は制限するという指導者の強い意志の表れです。

卑近なたとえば…

- ① 道路の渋滞なきように車はタクシー台数も含めて制限し、車の価格もカローラクラスで700万円ほどという高価さ。その代わり政策的にタクシーやバス運賃は安くして、でも、通勤ラッシュ時は25%オンのチャージ。渋滞はほぼ無いので、タクシーの運転手もイライラせずに穏やか…。
- ② 徹底的に水たまりは排除して、蚊やハエはいない。
- ③ ガムのもぐもぐ歩行とポイ捨ては大変迷惑なので、ガムは国内持ち込み禁止。
- ④ 国境を越えて忘れ物をしたら、担当者付きでバックOK。
- ⑤ 空港の手荷物検査は飛行機に乗る直前に実施して、出国前の渋滞はない。
- ⑥ 世界で一番素敵な野菜を適正価格で食べている、なぜなら農民は0人だから…。

などなど…多数！

賢い為政者が居て、ある種の自由をも制限するという強い意志の下、国家統制が行きとどいており、その底辺をなすのが教育。ゲストには是非ともリピートしてほしいという意識が国民にしみわたっているような国でした。まさに、『明るく安全な北朝鮮…』とでもいいでしょうか…。韓国が模倣の相手を日本からこのシンガポールに変更してきたというのが理解できるような気がしました。マライオンかマリーナベイサンズかと観光資源は少ないものの、是非とも1回は行って、日本という国のあり様を考えなおす価値のある国といえましょう。

歴史ない・国土小さい・資源ない・人口少ない…。持たざる事が最大の強み！ 人口1億2000万人の日本が8000万人に減るなんて、考えようによっては恐れるには足りん話かもしれませんよ。⇒これが道州制だ！

